

5-12

演題	8年ぶりの経口摂取からのアプローチ
副題	～新たな手法でQOLの向上を目指す～

諦めない介護
職員の誇りに

法人名	社会福祉法人 徳心会
施設名	特別養護老人ホーム 菅の里

発表者名 (職種)	岡田 知恵 介護支援専門員	都道府県	神奈川県
共同発表者	岩元 一将	住所	川崎市多摩区菅北浦 3-10-20
共同発表者	奥澤 麻里子	TEL	044-946-3400
共同発表者		FAX	044-946-3455
共同発表者		メールアドレス	suge-satsoudan@tiara.ocn.ne.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	菅の里は川崎市多摩区にあり、京王稲田堤駅と南武線稲田堤駅から徒歩6分の閑静な住宅街の中にあります。施設長や各部署の長も参加するカンファレンスを開催し、諦めない介護を意識してケアに当たっています。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

経口摂取が難しいと診断され長年胃瘻の方は、本当にもう味わう事が出来ないのでしょうか。味わう事が出来ればQOL向上に繋がられるはずで、菅の里にPT・OT・STはいませんが、嘱託内科医と訪問歯科医と連携し、施設長を始め全職員が分事として考える機会を持ち、実施した4名の胃瘻の方と1名の嚥下や食思低下の方への取り組みを発表します。

取り組んだ課題

A様はくも膜下出血で救急搬送されました。リハビリ目的で転院し嚥下リハビリに励むも経口摂取困難と診断され、胃瘻を増設されました。その後8年は経口摂取なく老健から入所されました。左半身麻痺と右上肢の拘縮あり発語は不明瞭。かつては社交ダンスをされ元々は活発な性格なのに「何もしたくない。寝ていたい。」と言われADLの低下が加速しました。他の胃瘻の方も含め「本当に味わう事が出来ないのか」と疑問を持ちアセスメントを行ない、カンファレンスを繰り返し聞いて私達が出来た事を行いました。

具体的な取り組み

- ① A様は集団リハビリや口腔体操等だけでなく、離床を拒まれていた為、ベッド上で硬くなっている口やその周囲を楽しく使って動かす事をゲーム感覚で根気よく繰り返しました。
- ② 覚醒がしっかりする等、変化が出た所で少しずつ離床を勧め、他の胃瘻の4名の方と1名の嚥下機能低下の方とグループを作り、嚥下に関わる動きの練習を楽しく励まし合い出来るように工夫しました。
- ③ 舌の動かし方の練習になり、味を感じられるには棒付き飴が有効と考え、取り組みました。
- ④ 更に棒付きチョコやあたりめ等、味のある物での練習で意欲を高めました。
- ⑤ むせがないよう注意しながら段階的にステップアップし、A様の好きな飲み物でトロミジュース、ゼリーを作り飲み込み力を確認しました。
- ⑥ 「食べる」を意識し、A様が希望された餃子とビールでパーティを企画しました。

活動の成果と評価

- ① A様→集団リハビリ等にも積極的に参加されるようになり、別人のように明るくなりました。餃子パーティの前には念のため嚥下外来を受診した所、私達が行なって来た事に付いて「嚥下関連動作を体験出来るような練習は素晴らしい継続は重要。」と好評価を頂きました。餃子パーティを開催し皆でビールで乾杯出来ました。アロマを用いたマッサージは特に気に入られ、肌がツヤツヤになりました。カラオケを楽しみ、新たな目標も持てました。
- ② B様→覚醒状態等が上がり、表情がハッキリしました。飴やチョコを見ると手を伸ばす等の自発動作が見られ、手指の拘縮が緩和しました。
- ③ C様→鼻をヒクヒクさせ提供する物の匂いを嗅ぎ目で追い、口をスムーズに開閉するようになりました。うなづきで意思表示をされるようになりました。
- ④ D様→いろんな物を味わえるようになりました。定期受診先の病院医より「素晴らしい、そういった訓練を是非続けるように。」とコメントを頂きました。
- ⑤ E様→嚥下機能低下と食欲不振にて食事摂取量3割がやっとでしたが、食事が全量になりむせがなくなりました。活気も出ました。「棒付き飴は人生初、長く生きるものね。」と言われました。御家族との会話も弾むようになりました。全員に効果と手応えがあり、地域の方の嚥下低下予防になればと地域の方への発信を行ないました。

今後の課題

- ・5名の方が生涯味わい美味しく食べ、更なるQOL充実を目指したい。
- ・味覚刺激から全身への効果の学びを深めていきたい。
- ・地域への発信継続を行い、地域の方の安全に美味しく食べるを支えたい。